

山梨県北巨摩郡須玉町

山ノ神遺跡

YAMANOKAMI SITE

水田農業経営確立対策県単独推進事業
山ノ神区画整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003

須玉町教育委員会

山梨県北巨摩郡須玉町

山ノ神遺跡

YAMANOKAMI SITE

水田農業経営確立対策県単独推進事業
山ノ神区画整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003
須玉町教育委員会



山ノ神遺跡近景

序

本報告書は、須玉町教育委員会が平成14年度に調査を行った山ノ神遺跡の発掘報告書であります。この調査は水田農業経営確立対策県単独推進事業山ノ神区画整備工事に先立つもので、対象面積約2,000m²が発掘されました。

本遺跡は、七里岩台地の鞍部に在り調査の結果、平安時代10世紀頃の住居址1軒と竪穴遺構2のほか溝7が発見され縄文時代前期から中期、後期に比定される土器片の他、平安時代から中世、近世までの遺物が出土しております。町内では初見の縄文時代草創期の尖頭器が発見されたことは大いに評価できると思います。最後に調査にあたって御協力いただいた関係者、関係機関並びに調査・整理作業に従事された方々にお礼を申し上げる次第であります。

平成15年3月

須玉町教育委員会
教育長 藤巻宣夫

例　言

1. 本報告書は、水田農業経営確立対策県単独推進事業 山ノ神区画整備工事に伴って発掘調査した、山梨県北巨摩郡須玉町若神子新町字山ノ神 829 番地ほかに所在する山ノ神遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、須玉町教育委員会が調査主体となり実施した。
3. 本調査の出土品、諸記録は須玉町教育委員会が保管している。
4. <発掘調査組織>

調査主体 須玉町教育委員会 教育長 藤巻宣夫

調査担当 須玉町教育委員会 山路恭之助

調査委員 深沢裕三

発掘参加者

浅川英光 角井保之助 伏見徳芳 深沢照明 深沢直子 宮崎夏子 白倉恵美子

石川モト子 小澤久恵 八巻まさ子 中込艶子 小尾嘉子 向井直子 斎藤知

吉村光江

整理員

岡本美恵子 市川道夫 市川博子 三井ちぐさ 小尾裕美子 土屋文美 吉村光江

浅川佐知子

5. 本書の執筆・編集 山路恭之助 深沢裕三 DTP 編集 浅川佐知子
6. 株式会社シン技術コンサルに写真測量・図化を委託した。
7. 本書の作成及び発掘調査にあたり、下記の方々よりご指導ご教示を賜った。

ご芳名を記して感謝の意としたい。

阪本美夫 出月洋文 森原明廣 保坂和博（埋蔵文化財センター）

平野修（帝京大学山梨文化財研究所）

凡　例

1. 本書で用いた地図は、国土交通省国土地理院の数値 200,000（甲府 1/200,000 平成 9 年 7 月発行）である。
2. 実測図の黒塗りは須恵器、それ以外の白抜きは土器・土師器などである。
3. 遺構及び遺物の挿図中の縮尺は下記のとおりである。
遺構全体図 1/400 住居址・竪穴遺構 1/80 遺物実測図 土器 1/2 1/4 石器 1/1
古銭 2/3
4. 遺構及び遺物写真図版の縮尺は、統一されていない。

目 次

巻頭図版

序

例言

目次

第1章 調査に至る経緯と経過.....	1
第2章 遺跡の立地と環境.....	3
第3章 遺構と遺物.....	4
(1) 1号住居址.....	4
(2) 竪穴遺構1.....	4
(3) 竪穴遺構2.....	4
(4) 溝遺構.....	5
まとめ.....	6

挿図目次

第1図 遺跡位置図.....	1
第2図 周辺の遺跡.....	2
第3図 遺跡詳細図.....	6
第4図 遺跡全体図.....	7
第5図 1号住居址・竪穴遺構1.....	8
第6図 1号住居址出土遺物.....	9
第7図 竪穴遺構1出土遺物.....	10
第8図 竪穴遺構2・溝遺構出土遺物.....	11
第9図 遺構外出土遺物.....	12

表目次

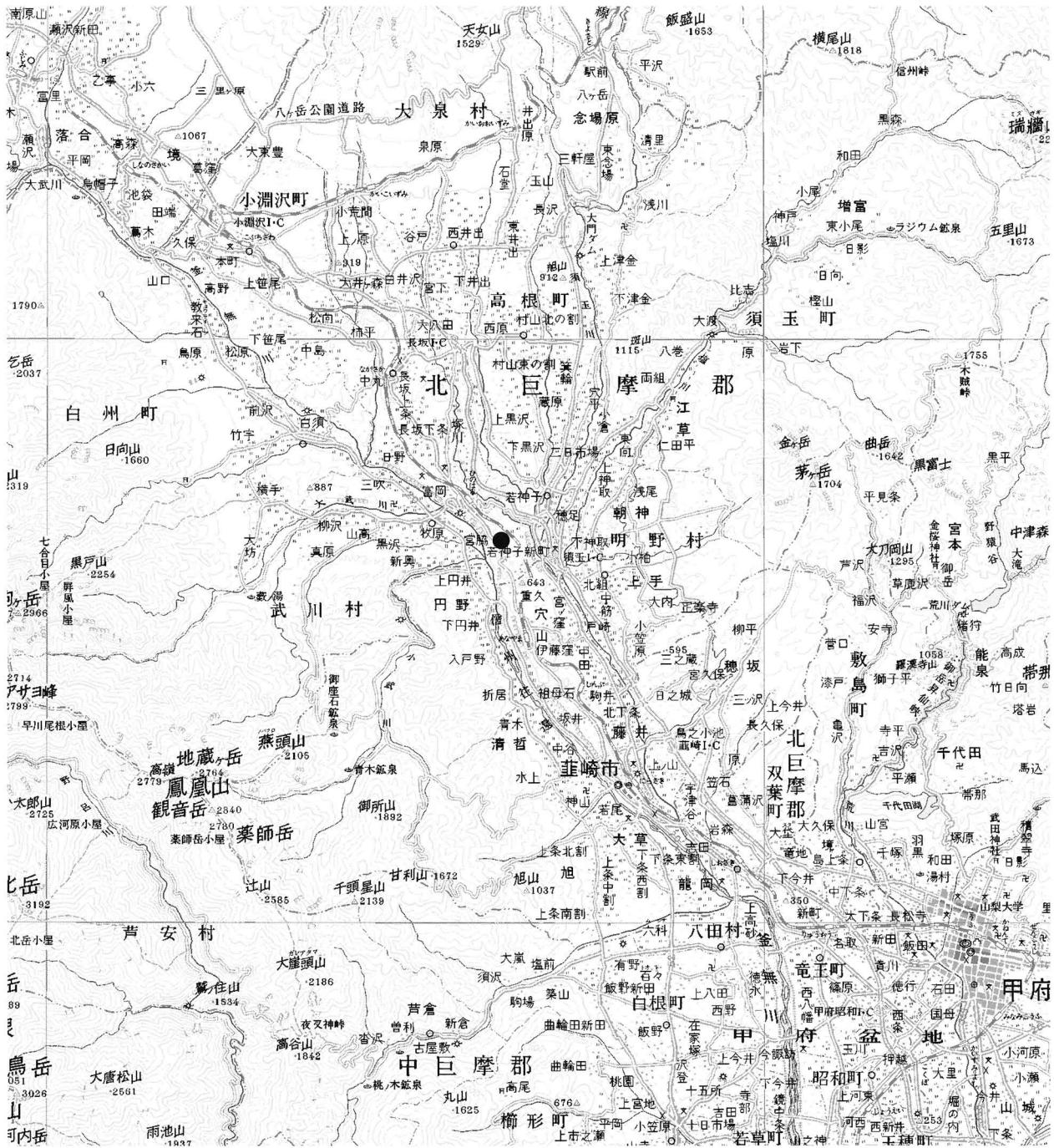
表1 土器観察表.....	13
表2 石器観察表.....	14
表3 金属製品観察表.....	14

図版目次

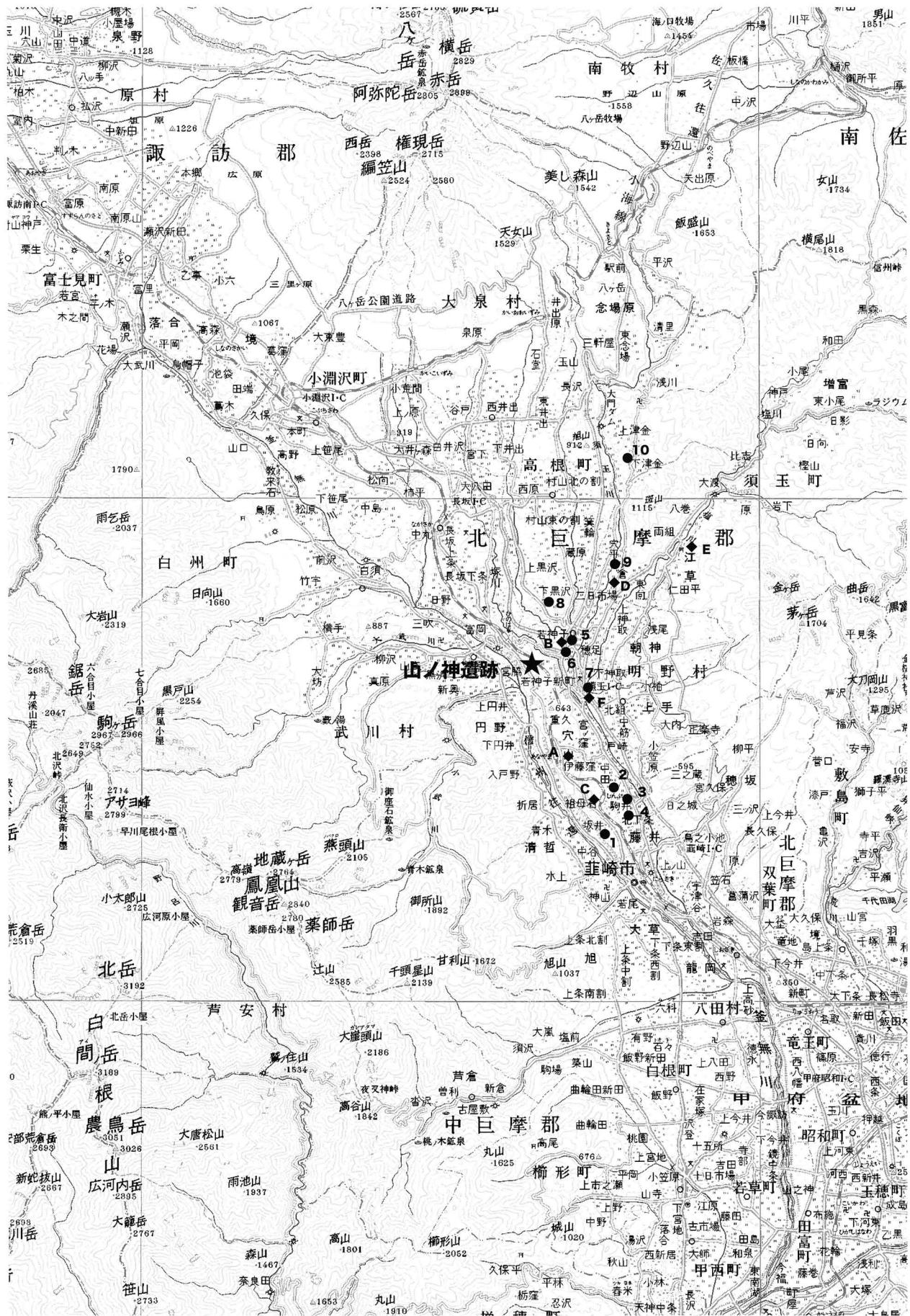
図版1 1号住居址 カマド焚口部より内黒土器出土	竪穴遺構1・2 溝遺構1・2 溝遺構3 溝遺構4から7
図版2 1号住居址出土遺物	竪穴遺構1出土遺物
図版3 竪穴遺構1・竪穴遺構2・溝遺構・遺構外出土遺物	

第1章 調査に至る経緯と経過

平成14年度、水田農業経営確立対策県単独推進事業 山の神区画整備工事に伴い須玉町教育委員会では事業事務を代行する須玉町農林課より照会を受け、事業予定地区の試掘調査を平成14年3月に行い遺跡の存在を確認した。その結果を元に町農林課と町教育委員会で協議し、整備事業に先立って調査対象面積を約2000m²に絞り発掘調査を行った。発掘調査は、平成14年7月11日 начиная с 9月4日に終了、平安時代住居址1軒と溝7条、竪穴遺構2が発見された。



第1図 遺跡位置図 (1/200,000)



第2図 周辺の遺跡（1/200,000）

第2章 遺跡の立地と環境

山ノ神遺跡は、若神子新町集落の北側にあたり、八ヶ岳山体崩壊に伴う葦崎岩屑流によってつくり出された小円頂丘と凹みが点在し、又多くの遺跡があり葦崎市穴山町から藤井町にかけて畠と果樹園の田園地帯となっている。若神子新町の西側を走る県道17号線（七里岩ライン）沿いには、権現サンと呼ばれる小円頂丘があり、中央線穴山駅東側県道17号線東側の小円頂丘には、中世城郭としての能見城Aがある。更に台地を北上すれば、甲斐源氏の祖、新羅三郎義光・義清・光長が拠ったとされる若神子城の古城・北城・そして南城の三城Bがある。

反対に、台地を南へ下れば天正十年武田勝頼自ら火を放ち落城した新府城Cが今多くの識者や観光の人々の泪を誘う。城郭以外にも周辺の遺跡として、台地上で縄文時代中期を代表する坂井遺跡1がある。七里岩台地の下は穀倉地帯として「藤井五千石」と呼ばれていた藤井平には、奈良、平安時代を主体とした中田小遺跡2、平安時代中心の前田遺跡3、弥生時代前期の水田跡や、四百軒以上の奈良・平安時代の集落跡が発掘された宮ノ前遺跡4がある。塩川をさかのぼれば、若神子町内で古墳時代7世紀の湯沢2号墳・3号墳古墳の5。台地上には9世紀後半代の土師器製作跡と住居址が発見された大小久保遺跡6がある。

中央道インターチェンジ建設予定地内から、山梨における平安期土師器研究に一石を投じた大豆生田遺跡7。高根町の官衙跡かと推察される平安時代の湯沢遺跡8。須玉町穴平の飯米遺跡9では、縄文中期末の住居址と平安時代の住居址があり、津金御所前遺跡10では、県内外に注目を浴びた縄文時代中期末の水炎土器と、中期井戸尻期の出産土器が出土した住居址がある。

遺跡			
番号	遺跡名	時代区分	備考
1	坂井	縄文・古墳・平安	昭和40年度
2	中田小	奈良・平安	昭和59年度葦崎市教育委員会
3	前田	平安	昭和62年度葦崎市教育委員会
4	宮ノ前	奈良・平安	平成元年～2年葦崎市教育委員会
5	湯沢2号墳・3号墳	古墳後期	平成13年度須玉町教育委員会
6	大小久保	9世紀後半	昭和57年度須玉町教育委員会
7	大豆生田	縄文・平安・弥生	昭和49年須玉町教育委員会
8	湯沢	平安	昭和58年度高根町教育委員会
9	飯米	平安	平成3年度須玉町教育委員会
10	津金御所前	縄文中期	昭和56・57年度須玉町教育委員会

城郭			
番号	城名	時代	備考
A	能見城	中世	
B	若神子・古城・北城・南城	中世	
C	新府城	中世	国指定史跡
D	中尾城	中世	
E	獅子吼城	中世	
F	大豆生田砦	中世	

第3章 遺構と遺物

(1) 1号住居址 (第4・5図・図版1)

すもも畑の間を南北へ走る農道沿いで、調査区域の西端から検出された遺構である。プランは隅丸方形を呈し、壁間は東西4.1m、南北4.3mが測られ、中央よりやや南寄りの東壁にカマドを持ち、外反ぎみの壁高は南壁が48cmで、他は42cm～45cmが測られる。幅8cm～10cmで深さ5cm～8cmの周溝がほぼ全周する。床面には屋根の葺石と思われる不整形で扁平な石が、カマドの前から中央にかけて散在している。床面は固くしまりカマド前部から南壁に向って、床面全体の4分の1に炭化粒子を含む焼土が見られる。柱穴は住居の内外から1つも検出することが出来なかった。カマドの規模は左右の袖石含めて90cm、焚口部から燃焼部まで110cmが測られ、左右の袖石は遺存するものの右袖石の一部は抜かれており貧弱なつくりといえる。

出土遺物 (第6図 図版2)

カマド焚口部に底部を上にして逆位で出土した在地系の高台付内黒坏(1)は、口径15.2cm、底径6.6cm、器高2.5cmで、内面は放射状暗文の上にヘラナデによって磨きを施している。口縁部は、わずかに玉縁状を呈し、器壁は暗褐色の胎土でやや外反ぎみである。同じくカマド内から出土した甲斐型皿(2)の3分の1が外面は布によるナデとヘラ削りが施され、内面の暗文上をヨコナデしている。口縁部は、わずかに玉縁状と呈する。赤褐色の胎土をもち、屈曲のある皿である。燃焼部から出土した甲斐型甕の胴部と思われる(3)。他には、カマド周辺から出土した薄口縁型カメ口縁部(4・5)がある。カマド前面部の構築材と思われる礫の下や左右袖裾付近から内面底部付近に自然釉を受けた須恵器壺(6)の破片が四散して出土し、部位が判らぬ程細かい破片の土師質土器、坏、皿、カメ等、少ない資料から遺構の時期は10世紀前半から半ば頃の年代が考えられよう。

(2) 穴遺構1 (第4図 図版1)

調査区域(地番829)の北東から検出された遺構で、プランは隅丸方形を呈し、東西4m、南北4mが測られる。北壁下に幅1m～1.5mの張り出し部があり、遺構確認面から1m～1.4m掘り込まれ、残る3分の2は張り出し部から更に50cm程掘り込まれる。

出土遺物 (第7 図版1・2・3)

遺構確認面から約70cmは、田を広げる目的で埋め立てた客土で、内黒土器底部(1)、須恵器カメ片に混ってキセルの雁首(2)などが出土している。中層の褐色土は約30cm堆積し、下層は黒褐色土で80cm～1mが測られ、平安から縄文時代の遺物包含層である。(3・4・5)は半截竹管工具による矢羽状平行沈線文の深鉢片で、胎土中に纖維を含み縄文時代前期に当たる。(6)は口縁に小突起をもつ深鉢の小片で、確認面から1m～1.2mで下層の上部から出土している。(7)は地文に縄文を施し細い沈線による区画文の深鉢片で、(8)は横位沈線文を縄文で充填している深鉢片で、共に縄文時代後期に当たる。中層からは、平安時代甲斐型坏片(9)、須恵器坏底部(10)、須恵器カメ片で芯がセピア色で「生焼け」の(11・12)がある。内黒土器底部(13)、甲斐型皿(14)、在地系のカメで薄口縁型の(15)、中世から近世の遺物の中には白磁の碗(16)や、内外を茶褐色釉で施釉した碗の胴部片が上層で出土している。

(3) 穴遺構2 (第4図 図版1)

1号穴遺構から約7.5m南に離れて検出され、プランは隅丸方形を呈し、規模は東西3.9m、南北3.8mが測られ、掘り込みの深さは1.6mから1.8mが測られる。1号穴遺構と同様に柱穴の検出には至らなかった。

出土遺物（第8図 図版3）

遺構確認面から1m～1.5mの間から検出され、土師器土器の他、陶器片も出土し遺構の掘り込まれた目的と時期については不明である。

遺構確認面から80～90cmが田を広げる際の客土で、遺物包含層は下層の褐色土層と、黒褐色土層で1mが測られる。隆帶の両側に、ペン先状工具による連続刺突文（1）は、縄文時代中期初頭新道式に比定され、区画内に連続爪形文（2）は中期中葉にあたり、柄部欠損の小型石斧（3）、土偶の手と思われる土製品（4）がある。内黒土器片、土師器カメ、須恵器カメ等の平安時代の遺物と、近世の染付陶磁器片のほか、（5）は見込みを蛇の目状に釉剥ぎして重ね積みする方法で一度に大量に焼かれた陶器の皿、寛永通宝（6）が出土した。

（4）溝遺構（第4図 図版1）

溝-1 1号住居址の南にあって、幅は70cm～1m、深さ約30cm～65cmで北へ向って深くなり「く」の字状を呈する。溝2によって切られている。底から砂、小石はなく、ほぼ平坦で壁は垂直に立ち上る。

溝-2 調査区外の町道の下、南から調査区を北へ横切って掘り込まれ長さは約24m幅は南側に30cm北側で45cm深さは15cm～40cmが測られ、南から北へ1号溝を切って掘り込まれている。

その他の溝 東西30m南北10mの地番828から検出された5条の溝で、南に接する地番823のすもも畑に発し、平行して流れる堰の下を通って東へ流下する。

溝-3 長さ18m 幅（西から東）48～70cm 深さ44～105cm 砂、小石無し。

溝-4 長さ17m 幅（西から東）30～50cm 深さ8～40cm 北側が低く、南側が高い。砂、小石無し。

溝-5 長さ22m 幅（西から東）50～65cm 深さ10～20cm 北側が低く、南側が高い。砂、小石無し。

溝-6 長さ28m 幅（西から東）15～50cm 深さ15～50cm 砂、小石無し。

溝-7 長さ30m 幅（西から東）30～40cm 深さ15～40cm 砂、小石無し。

出土遺物（第8図 図版3）

溝-2の確認面から40cm前後の下層から中期中葉の楕円区画文内に爪形文を施した深鉢片や、縄文を地文に細い沈線による区画文の後期堀ノ内式の土器片が出土している。上層から中層にかけ平安時代の赤褐色の色調をもつ甲斐型土師器の細片や須恵器坏片が、近世では染付陶器片も出土している。

溝-3では、縄文土器の胴部細片、平安時代の土師器細片が出土している。灰釉陶器片の他、近世では染付磁器碗と施釉陶器片も出土している。

溝-5では、粘土紐の上を指頭で押えた紐線文土器片（1）は、後期中葉に比定される。

溝-6では、ペン先状工具による連続刺突文の深鉢片、隆帶に沿って爪形文を施した深鉢片、横位の「わらじ虫」（2）の深鉢片等は、中期中葉に比定され中期末から後期にかけての土器片も出土している。下って平安時代の土師質土器片や近世の深緑釉の陶器片も出土している。石器では、砥石（3）、頁岩の搔器（4）、粘板岩製で一部欠損した打製石斧（5）、小型ながら完形の石鎌（6）、基部が欠損する槍先形尖頭器（7）は、縄文時代草創期に当り町内初見の遺物である。

遺構外出土遺物（地番829、828内）（第9図 図版3）

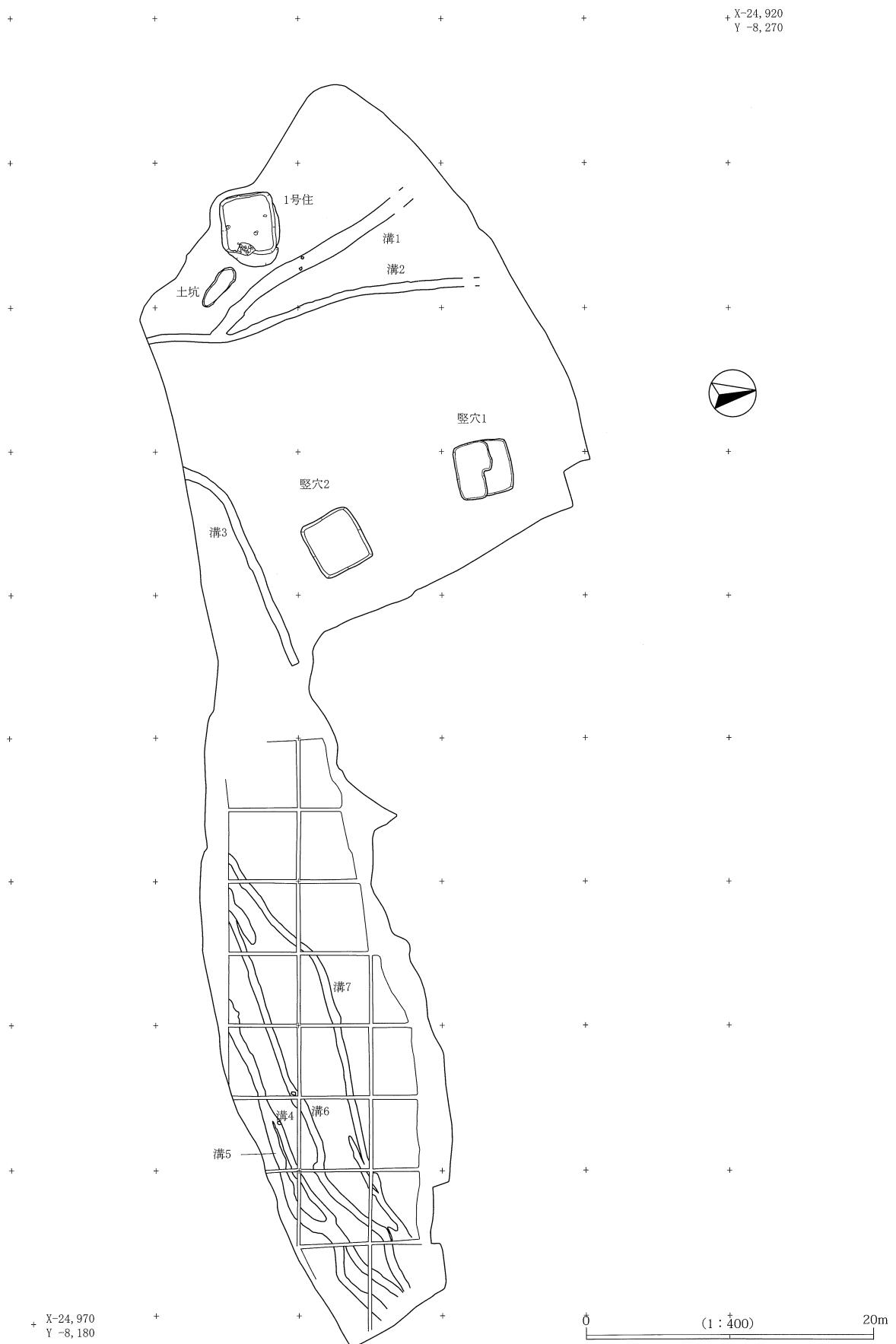
中期末の櫛歯状工具による条線文土器片、後期で縄文を地文とし、沈線による区画文のもの、口唇に刻み目を施した深鉢片などがある。石器では、側面が鋸歯状で、長さ約2.7cmの比較的大きめな黒曜石石鎌（1）、頁岩の小ぶり長さ1.9cmの石鎌（2）、一部欠損の長さ1.8cmの黒曜石無茎石鎌（3）が、石斧では撥型打製石斧の完型（4）、短冊形打製石斧で先端を欠損したもの2本（5・6）が出土している。平安時代の須恵器片、土師質土器片、灰釉陶器片も細片ながら検出されている。近世の陶磁器片の他、寛永通宝（7・8）2枚出土している。

まとめ

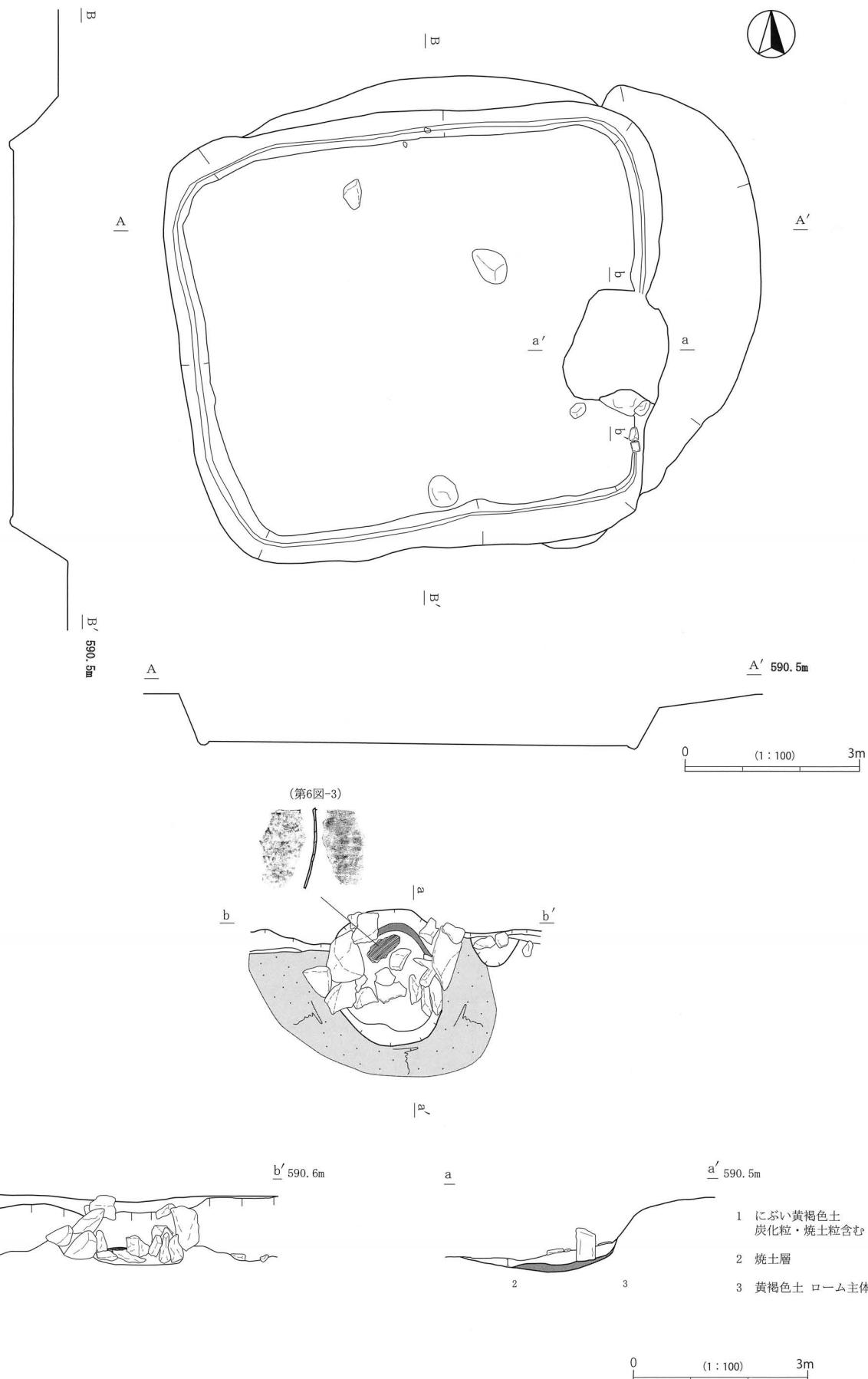
県道 17 号線（七里岩ライン）と平行する調査区西側の町道との間の果樹畠周辺から、平成 4 年の町内遺跡分布調査に伴う踏査によって、縄文時代中期の深鉢片と打製石斧を含む石器等多くの資料を検出している。圃場整備事業対象区内、微高地にあたる地番 828、829 の二枚の田から平安時代住居址 1 軒と、時期と性格不明の竪穴遺構 2 の他、7 条の溝を検出したが、圃場整備対象区域の大半が低い窪地のぬか田で、ここを囲む丘陵地の雜木林や果樹畠の中に、縄文時代から平安時代の集落跡や、伝承される甲斐源氏につながる中世の武家屋敷跡などが、長い眠りの中にいる事が想像される。



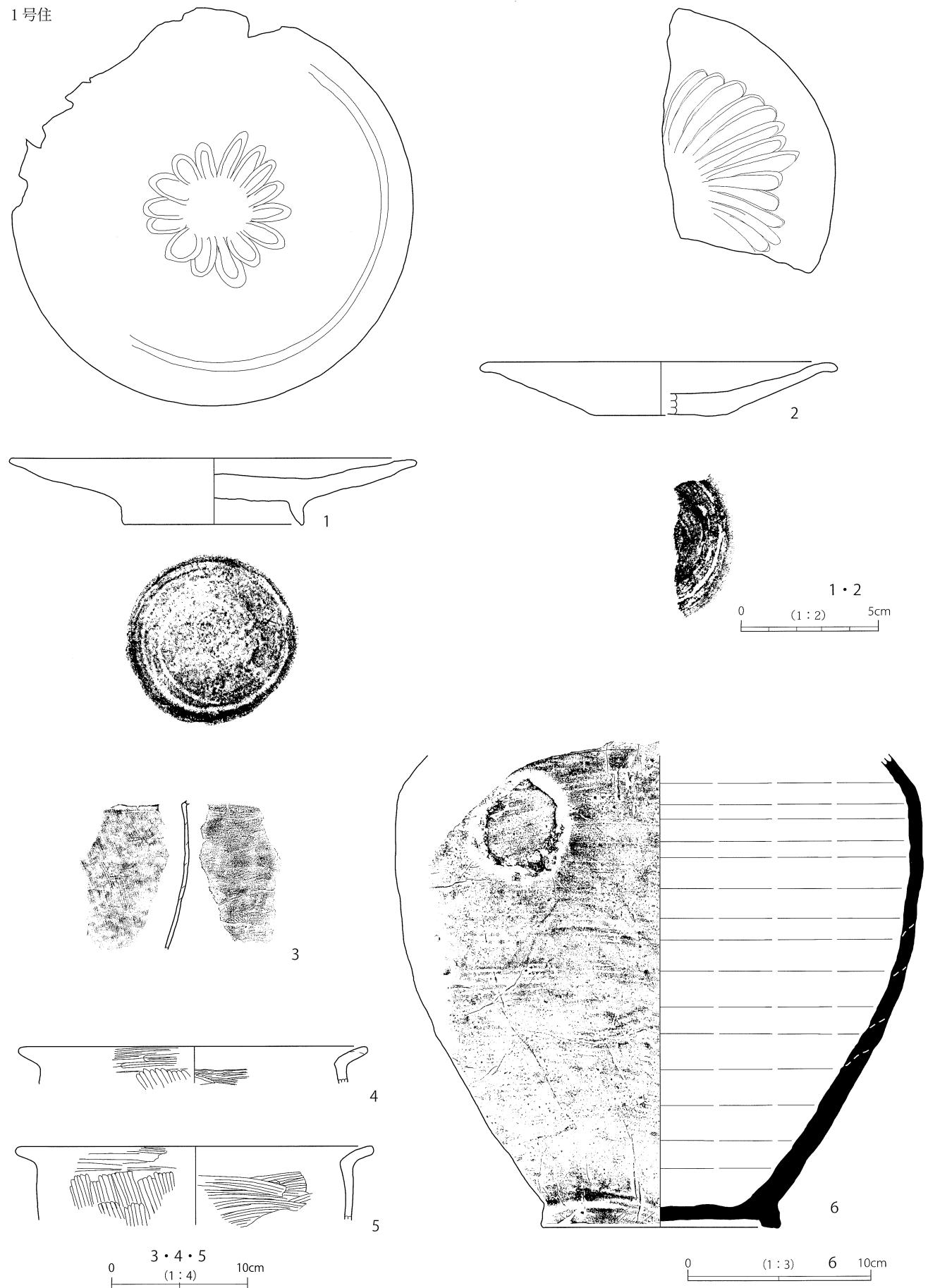
第3図 遺跡詳細図 (1/2,500)



第4図 遺跡全体図



第5図 1号住居址及び竈



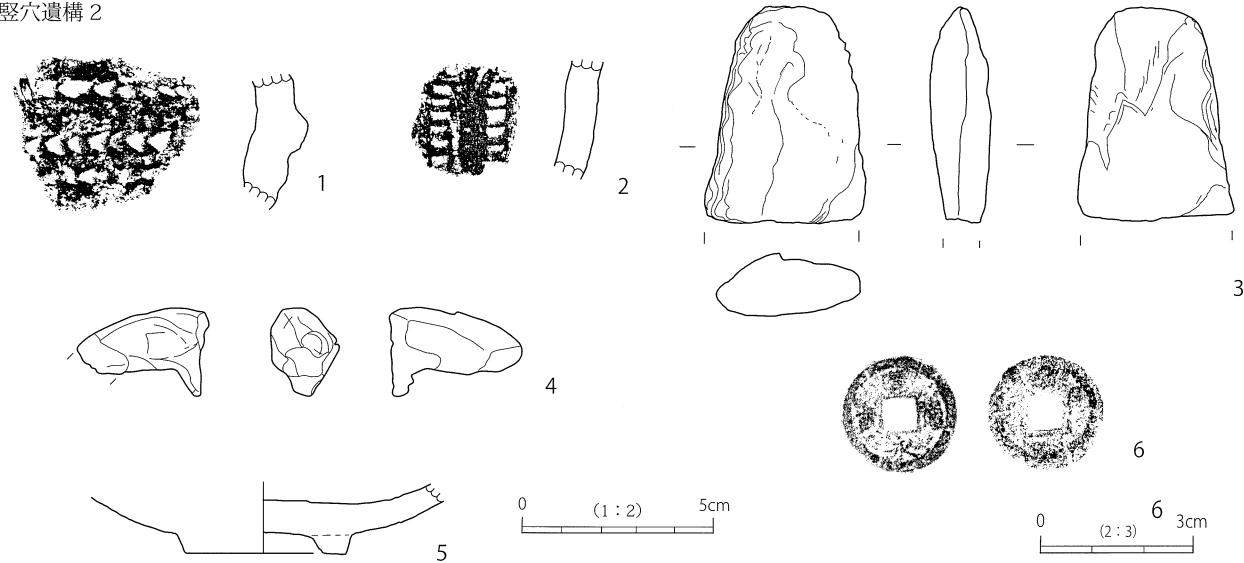
第6図 1号住居址出土遺物

堅穴遺構 1

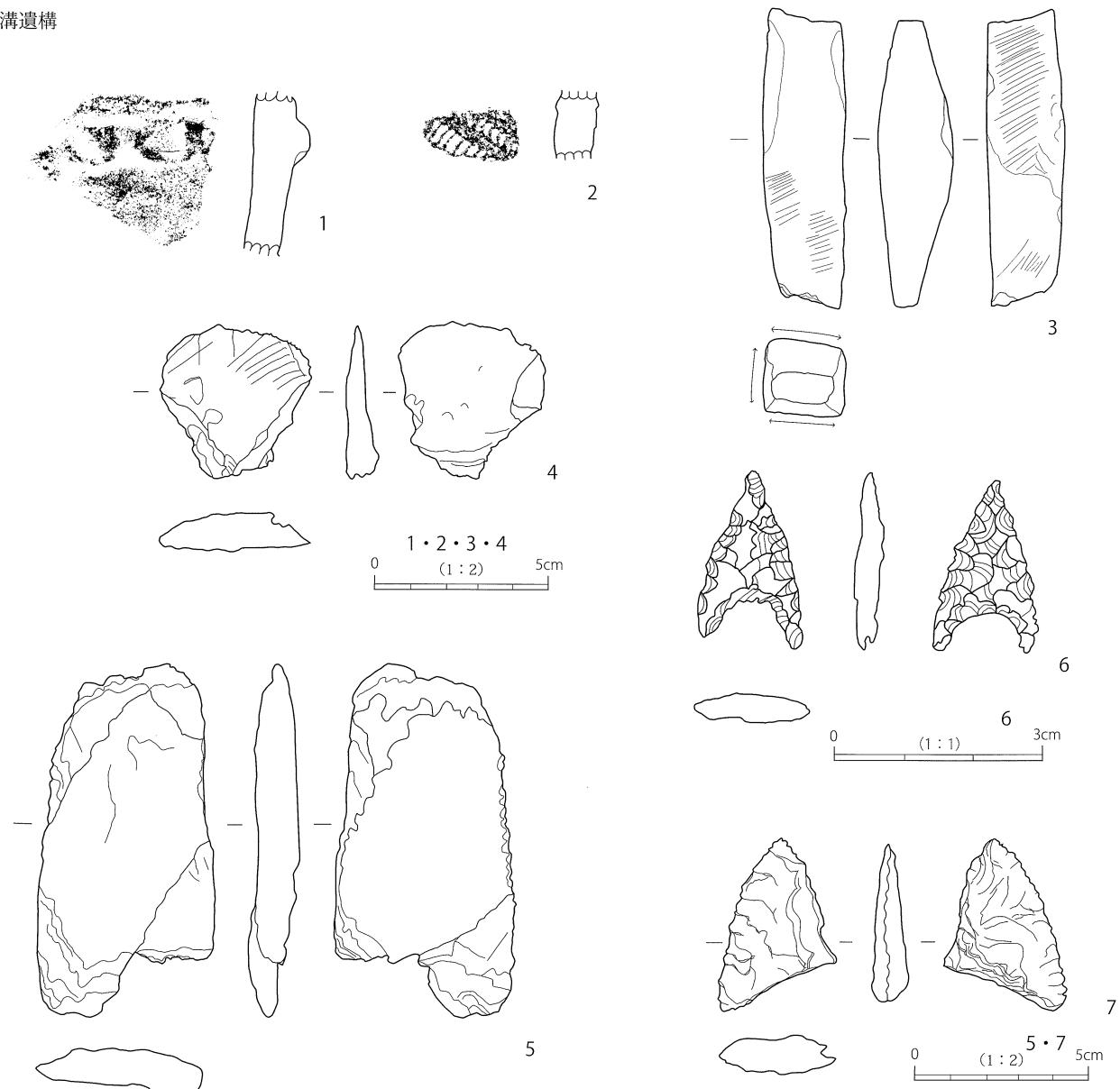


第7図 堅穴遺構1出土遺物

豎穴遺構 2

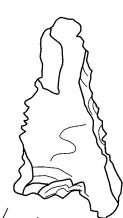
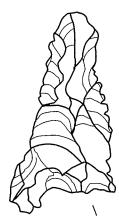


溝遺構

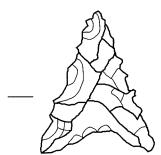


第8図 豊穴遺構2・溝遺構出土遺物

遺構外



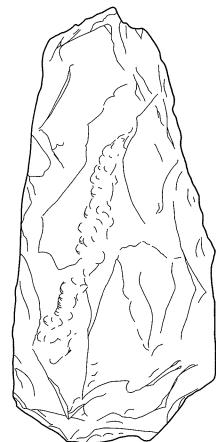
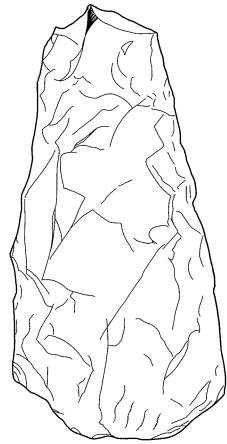
1



2

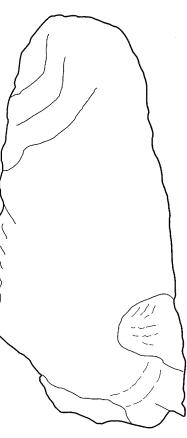
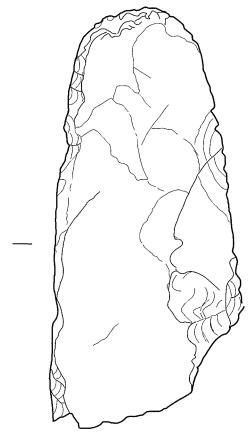
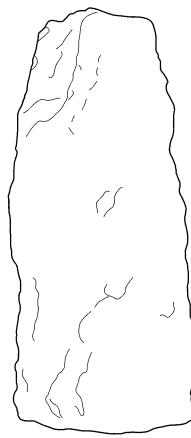
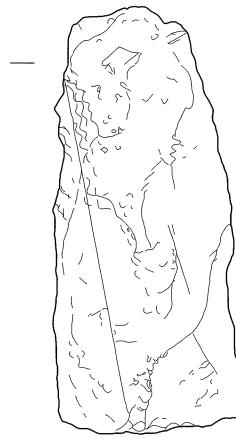


3



4

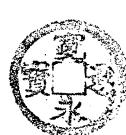
1・2・3
(1:1)
3cm



5



7



8

4・5・6
(1:2)
5cm

0
7・8
(2:3)
3cm

第9図 遺構外出土遺物

表1 土器遺物観察表

単位 cm

() 内の数字は、推定値

挿図	出土地点	遺物番号	種別	器種	口径	底径	器高	色調	胎土	整形施文	備考
6	1号住	1	内黒土師器	高台付皿	15.2	6.6	2.5	(内) 黒色 (外) 暗褐色		(内) ナデ放射状暗文 (外) 布によるナデ	
6	1号住	2	土師器	甲斐型皿	(13.2)	(5.0)	(2.0)	茶褐色	赤色粒子 黒色粒子	(外) 布によるナデ (底) 糸切り後ヘラ削り	
6	1号住	3	土師器	甲斐型甕	-	-	-	褐色	金雲母 赤色粒子	(内) ヨコハケメ (外) 斜めハケメ	
6	1号住	4	土師器	甕	(25.8)	-	-	褐色	石英・金雲母	(内) ヨコハケメ (外) タテハケメ	
6	1号住	5	土師器	甕	(26.6)	-	-	暗灰色	石英・金雲母	(内) ヨコハケメ (外) タテハケメ	
6	1号住	6	須恵器	壺	-	13.4	-	黒褐色		(内) ハケメ (外) 櫛目 (底部) ヘラ削り	貼付高台、底部内面自然釉付着
7	竪穴1	1	内黒土師器	皿	-	6.0	-	(内) 黒色 (外) 黄褐色	金雲母・石英	糸切り後ナデ	
7	竪穴1	3	土器	深鉢	-	-	-	(内) 黑褐色 (外) 灰褐色	石英	半截竹管	
7	竪穴1	4	土器	深鉢	-	-	-	(内) 黑褐色 (外) 灰褐色	石英	半截竹管	
7	竪穴1	5	土器	深鉢	-	-	-	(内) 黑褐色 (外) 灰褐色	石英	半截竹管	
7	竪穴1	6	土器	深鉢	-	-	-	鈍い橙色		小突起	
7	竪穴1	7	土器	深鉢	-	-	-	黄橙色	白色粒子	地文・縄文 細い沈線による区画文	
7	竪穴1	8	土器	深鉢	-	-	-	暗褐色			
7	竪穴1	9	土師器	甲斐型壺	-	(6.0)	-	赤褐色		内外) ロクロナデ	
7	竪穴1	10	須恵器	壺	-	(6.0)	-	青灰色		(底) 糸切り痕	
7	竪穴1	11	須恵器	甕	-	-	-	オリーブ色の釉			
7	竪穴1	12	須恵器	甕	-	(7.0)	-	灰色			
7	竪穴1	13	土師器	内黒皿	-	(6.4)	-	(内) 黒色 (外) 鈍い褐色		(底) 糸切り後ヘラ削り	
7	竪穴1	14	土師器	甲斐型皿	-	(7.0)	-	赤褐色			暗文・墨書
7	竪穴1	15	土師器	甕	(33.4)	-	-	鈍い橙色		(内外) ロクロナデ	
7	竪穴1	16	陶器	高台付	-	(4.1)	-	灰白色		(内外) 乳白色釉	
8	竪穴2	1	土器	深鉢	-	-	-	褐色		連続刺突文	
8	竪穴2	2	土器	深鉢	-	-	-	褐灰色		連続爪形文	
8	竪穴2	4	土製品		-	-	-	褐色			土偶の手?
8	竪穴2	5	陶器	皿	-	4.2	-	黄橙色			
8	溝	1	土器	深鉢	-	-	-	黄橙色		紐線文	
8	溝	2	土器	深鉢	-	-	-	黄褐色			ワラジ虫

表2 石器観察表

単位 cm

() 内の数字は、推定値

挿図	出土地点	遺物番号	分類	長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石材	備考
8	豎穴2	3	石斧	(5.7)	(3.8)	(1.5)	(49.4)		小型 柄部欠損
8	溝	3	砥石	(8.5)	2.3	2.15	(64.1)		
8	溝	4	搔器	4.5	4.4	0.6	15.2	頁岩	
8	溝	5	打製石斧	(10.4)	4.9	1.15	(99.3)	粘板岩	
8	溝	6	石鏃	2.6	1.6	0.4	0.9	黒曜石	
8	溝	7	尖頭器	(4.7)	3.3	0.8	(15.3)	チャート	槍先形 一部欠損
9	遺構外	1	石鏃	(2.7)	1.4	0.7	(1.4)	黒曜石	一部欠損
9	遺構外	2	石鏃	1.9	1.2	0.4	0.7	チャート	
9	遺構外	3	石鏃	(1.8)	1.3	0.3	(0.5)	黒曜石	無茎 一部欠損
9	遺構外	4	打製石斧	11.6	5.0	1.9	140		短冊型
9	遺構外	5	打製石器	11.4	4.0	1.1	135	砂岩	短冊型
9	遺構外	6	打製石器	11.2	4.7	1.5	122	粘板岩	短冊型

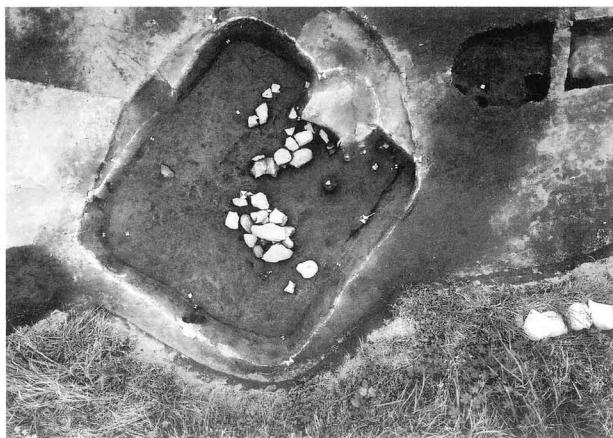
表3 金属製品観察表

挿図	出土地点	遺物番号	分類	材質	長さ	厚さ	重量(g)	備考
7	豎穴1	2	キセル	銅	4.3		6.3	煙管雁首部

挿図	出土地点	遺物番号	分類	材質	外径	孔径	重量(g)	備考
8	豎穴2	6	錢貨	銅	2.4	0.55	1.6	寛永通宝
9	遺構外	7	錢貨	銅	2.4	0.55	2.4	寛永通宝
9	遺構外	8	錢貨	銅	2.4	0.64	2.3	寛永通宝

写真図版

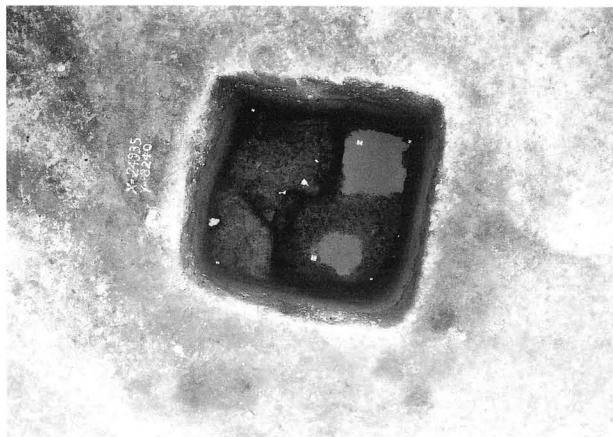
図版 1



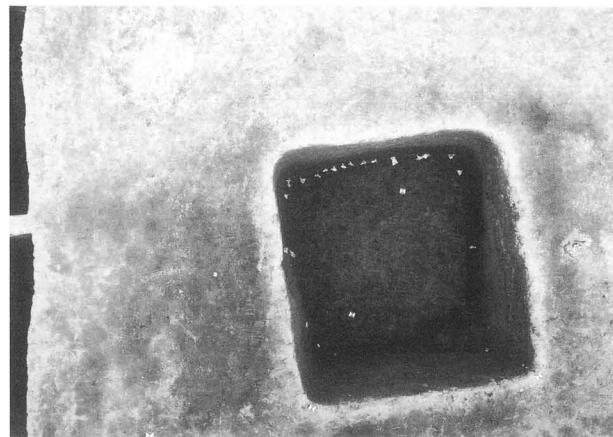
1号住居址



カマド焚口部より高台付内黒坏出土



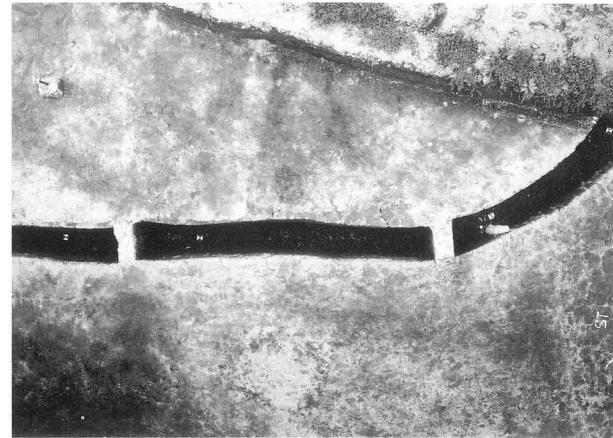
竪穴遺構 1



竪穴遺構 2



溝遺構 1・2



溝遺構 3

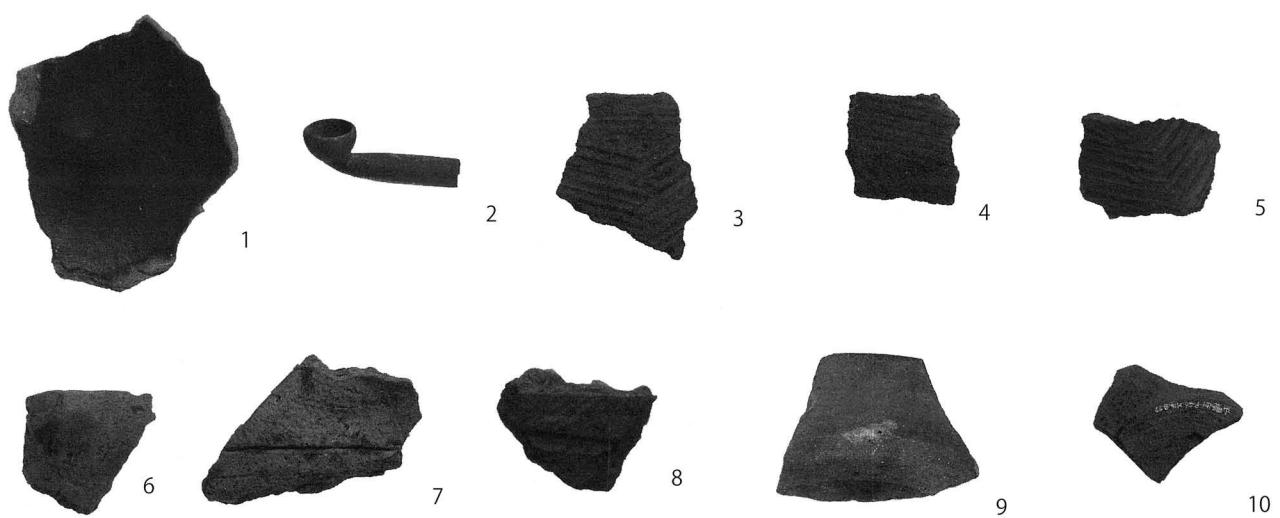


溝遺構 4から 7

1号住



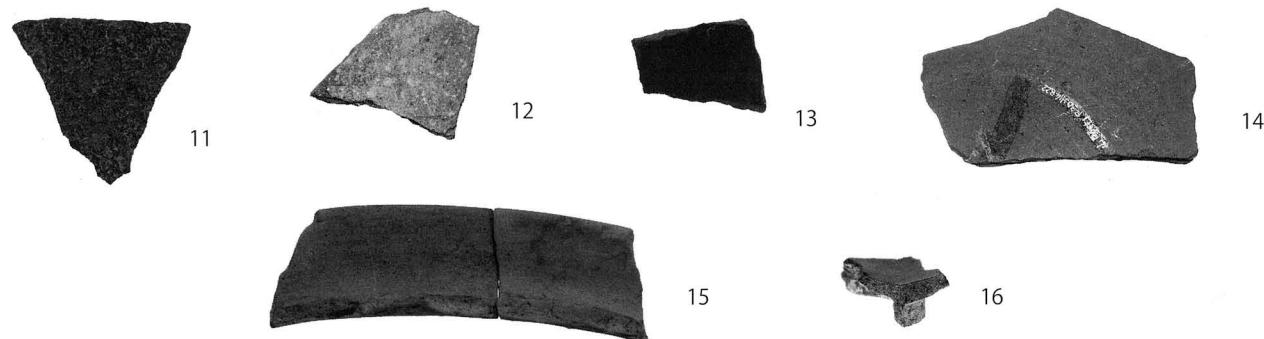
竪穴遺構 1



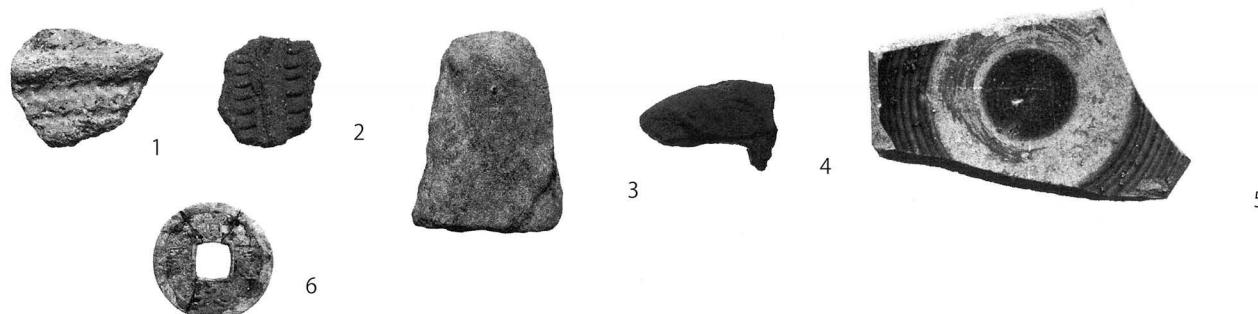
1号住居址・竪穴遺構 1 出土遺物

図版 3

竪穴遺構 1



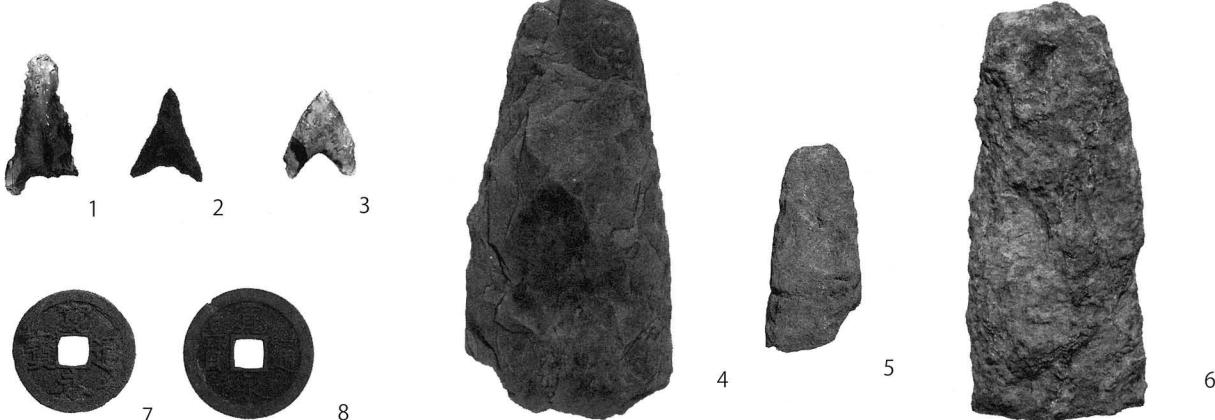
竪穴遺構 2



溝遺構



遺構外



竪穴遺構 1・竪穴遺構 2・溝遺構・遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	やまのかみいせき
書名	山ノ神遺跡
副題	水田農業経営確立対策県単独推進事業 山の神区画整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
ジリーズ	-
編著者名	山路恭之助 深沢裕三
発行者	須玉町教育委員会
編集機関	須玉町教育委員会
所在地・電話	〒408-0112 山梨県北巨摩郡須玉町若神子 1429 TEL0551-20-6111
発行日	平成15年3月31日
遺跡所在地	山梨県北巨摩郡須玉町若神子字山ノ神 829 番地他
	25,000分の1地形図 若神子
	位置 東経 138° 24' 30" 北緯 35° 4' 7" 標高 590m
	市町村コード 194034
調査原因	水田農業経営確立対策県単独推進事業 山の神区画整備工事に伴う発掘調査
調査期間	平成14年7月11日～9月4日
調査機関	須玉町教育委員会
調査面積	2,000m ²
時期	平安時代
主な遺構	住居1軒、溝7条、竪穴遺構2
主な遺物	縄文土器、石鏃、古銭
特記事項	

印刷仕様

紙質 表紙 テンカラーねずみ 175Kg
本文 コート紙 70.5Kg
DTP Macintosh Adobe InDesign2.0
使用フォント 小塙明朝、小塙ゴシックを使用
画像原稿 モノクロ 133線

山ノ神遺跡
YAMANOKAMI SITE

水田農業経営確立対策県単独推進事業
山ノ神区画整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成15年3月31日発行
編集 須玉町教育委員会
発行 須玉町教育委員会
印刷 有限会社高速プリント
